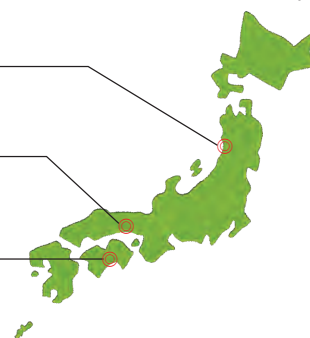


令和5年度 地方公務員のメンタルヘルス対策の推進に関する研究会 現地開催・現地調査 概要

(令和6年3月)

1. 現地開催（第2～4回研究会）

- **第2回研究会：秋田県開催（令和5年10月20日）**
・参加者：15市町村、県庁、研究会座長・委員
- **第3回研究会：兵庫県開催（令和5年10月24日）**
・参加者：20市町、県庁、研究会座長・委員
- **第4回研究会：高知県開催（令和5年11月1日）**
・参加者：13市町村、県庁、研究会座長・委員



2. 研究会概要・意見交換における主な意見

● 第2回研究会

- **秋田県秋田市、秋田県美郷町、齋藤修司委員から事例等を発表**
- **事前アンケート調査結果に基づき意見交換** ※第3回、第4回も共通
- **産業医との関わり方についての意見が多数**



- ・産業医が精神科医ではない、産業医が多忙であるといった理由から、計画策定やメンタルヘルス対策の取組について十分な相談ができない。
- ・産業医は精神科等の専門でなくとも、メンタルヘルスを勉強して資格を得ているため、一番職場のことを知っている医師として積極的に活用、相談していただきたい。

● 第3回研究会

- **兵庫県姫路市、兵庫県佐用町、兵庫県庁、川波祥子委員から事例等を発表**
- **メンタルヘルス対策に関する計画策定についての意見が多数**

- ・計画策定にあたっては、職員アンケートを基に実情を把握して、各安全衛生委員会や産業医、精神科医などの意見を取り入れて検討。また、国の指針や、当時既に策定していた他の中核市の計画を参考にした。
- ・計画の存在が重要なのではなく、計画的な対応が重要。計画(例)を活用し、計画的な対応してほしい。

● 第4回研究会

- **高知県四万十町、高知県庁、松原光代委員から事例等を発表**
- **メンタルヘルス対策に関する計画策定と復職支援についての意見が多数**

- ・既に実施している取組を計画として示すことで、予算取りや体制整備の根拠にできる。また、担当部署だけではできないので、周辺も一緒に巻き込んでいく工夫もできる。
- ・特に若手職員の復職にあたっては、上手に休みを取りながら自分で体と心をコントロールする方法を考え、練習する形の復職指導を心がけている。

3. 現地調査

(研究会現地開催と並行して、開催県内の地方公共団体を直接訪問し、首長等との面会や実務担当部署との意見交換を実施)

- **訪問先** 【秋田県】美郷町、秋田県庁 【兵庫県】姫路市、佐用町 【高知県】四万十町、高知県庁
- **主な意見等**

- ・産業医からの提案をきっかけとして計画を策定。産業医は精神科専門ではないが、職場の安全衛生に非常に理解があり、多くのアドバイスを得て成案化した。
- ・配布したセルフケアの冊子の活用状況、現在の悩み・課題の有無、相談の有無などをアンケートで確認。若手職員は手挙げではなかなか相談に来ないため、積極的にアプローチすることによって、相談できる機会があるという気づきになるようにしている。
- ・職員からの希望により計画を策定。保健師、組合、産業医等がコアメンバーとなり、国の指針や他団体の取組を原案に作成した。
- ・メンター・メンティー制度を通じて、コミュニケーションが増え、若手職員同士の繋がりができてきている。